

世界標準債券ファンド（1年決算型） ＜愛称 ニューサミット（1年決算型）＞

追加型投信／内外／債券

交付運用報告書

第3期(決算日2017年7月18日)

作成対象期間(2016年7月20日～2017年7月18日)

第3期末(2017年7月18日)	
基準価額	9,178円
純資産総額	741百万円
第3期	
騰落率	10.1%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界標準債券ファンド(1年決算型)」は、2017年7月18日に第3期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

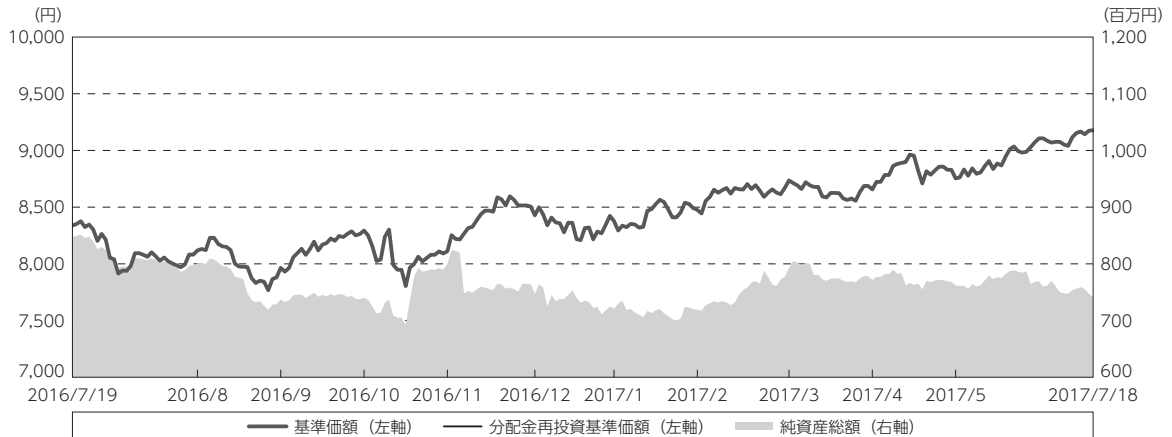
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2016年7月20日～2017年7月18日)



期 首：8,338円

期 末：9,178円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：10.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2016年7月19日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・保有債券からの金利収入を得たこと。
- ・投資対象通貨のアメリカドル、メキシコペソ、ロシアルーブルおよびインドネシアルピアが対円で上昇したこと。
- ・ロシアの債券利回りが低下(債券価格は上昇)したこと。

<値下がり要因>

- ・米国、メキシコの債券利回りが上昇(債券価格は下落)したこと。

1万口当たりの費用明細

(2016年7月20日～2017年7月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	94	1.120	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 33）	（0.388）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 59）	（0.700）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 3）	（0.032）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	8	0.099	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 0）	（0.005）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	（ 8）	（0.094）	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	（ 0）	（0.000）	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	102	1.219	
期中の平均基準価額は、8,434円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

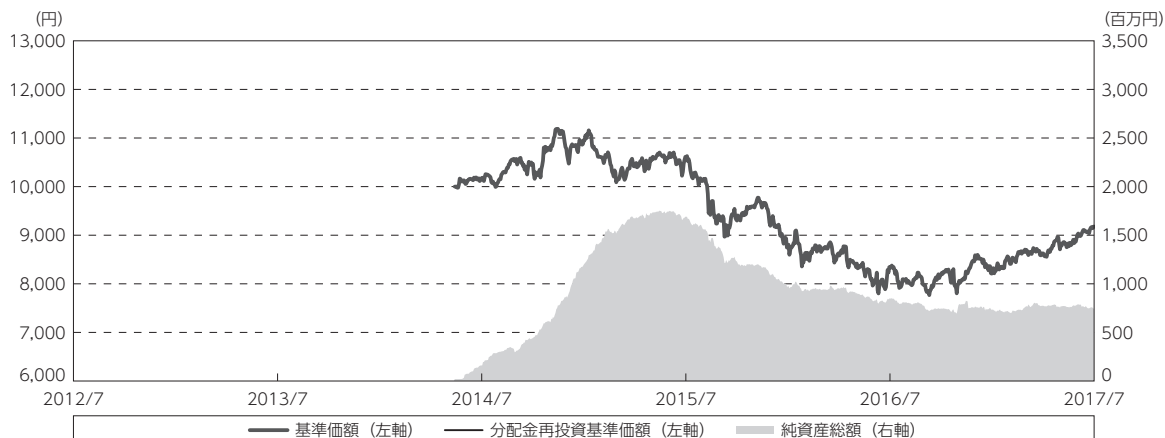
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年7月17日～2017年7月18日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2014年6月2日です。

	2014年6月2日 設定日	2015年7月17日 決算日	2016年7月19日 決算日	2017年7月18日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,628	8,338	9,178
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.3	△ 21.5	10.1
純資産総額 (百万円)	20	1,688	847	741

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年7月17日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2016年7月20日～2017年7月18日）

（海外債券市況）

米国債券市場では、期間の前半は、米国大統領選挙を控えた不透明感から利回りが低下する局面があったものの、選挙後は米国次期政権による積極的な景気刺激策が財政赤字の拡大とインフレ期待につながるとの見方が強まったことから、利回りは上昇しました。また、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟国が減産で合意し、今後の原油価格の安定が期待されたことや、米国連邦公開市場委員会（FOMC）における利上げの決定および2017年の政策金利予測の上方修正なども利回り上昇の要因となりました。2017年3月の後半からは、シリアや北朝鮮情勢の緊迫化や、米国政権とロシアとの不透明な関係を巡る疑惑などが広がり、投資家の安全資産への逃避需要が強まったことから、利回りは低下しました。

新興国市場では、期間の前半は、原油価格の軟調な推移や、トルコにおけるクーデター未遂事件の発生、欧州中央銀行（ECB）が追加金融緩和策の必要性を否定したこと、米国連邦準備制度理事会（FRB）による追加利上げや金融引締めペースの加速見込みなどが重しとなり、新興国債券市場の利回りは上昇しました。2016年12月以降は、米国政権とロシアとの不透明な関係を巡る疑惑などを受けた投資家によるリスク回避姿勢などから新興国債券の利回りが上昇した時期もあったものの、OPECなどによる協調減産の延長表明を受けて原油価格が上昇したことや、米国の利上げペースの緩和観測を受けて新興国からの投資資金の流出懸念が和らいだことなどから、新興国債券の利回りは低下しました。

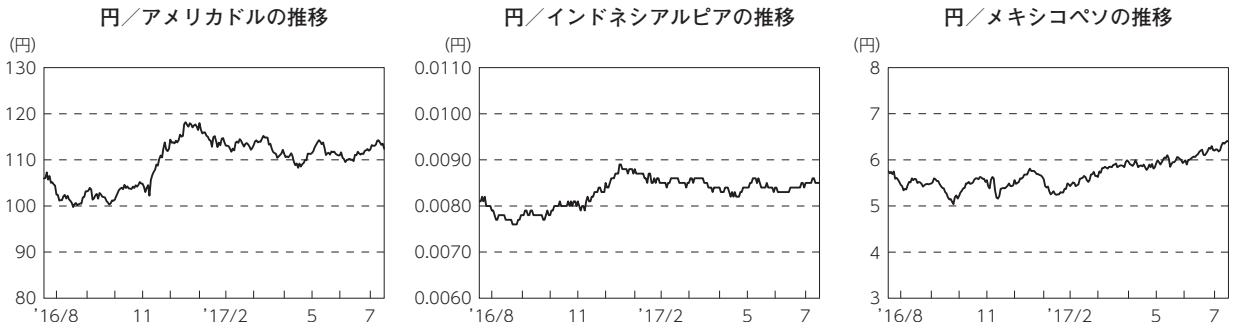
（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.04%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.05%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.28%近辺から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.11%近辺で期間末を迎えました。

（為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。



当ファンドのポートフォリオ

（2016年7月20日～2017年7月18日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

期間の前半は、ブラジルレアル建て、メキシコペソ建て、インドネシアルピア建て、アメリカドル建ての国債および国際機関債などを組み入れました。その後、米国大統領選挙で共和党候補が当選したことにより、米国とロシアの関係の変化による恩恵を受けると判断して、2016年11月にロシアを新規に組み入れました。その一方で、共和党候補が北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉を公約に掲げていることなどを懸念し、メキシコの組入れを引き下げました。

期間の後半は、ロシア政府による米国大統領選挙の介入疑惑から米国とロシアの関係が悪化していることや、米国でのシェールオイルの予想以上の増産が原油価格の重しとなることを懸念して、2017年6月中にロシアを投資対象から外しました。一方、アメリカドル建てとメキシコペソ建て債券の組入比率を引き上げました。欧州と日本での量的金融緩和の継続を背景に、米国の金利上昇が支援材料になると考え、引き続き米国を選好しました。また、米国経済の強さが増せば最終的には輸入拡大へとつながり、トランプ新政権を巡る悲観論をよそに、中期的にはメキシコに恩恵をもたらす可能性があると考えました。期間末における保有債券の国別内訳は、組入比率の高い順にメキシコ、インドネシア、米国としました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年7月20日～2017年7月18日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

（2016年7月20日～2017年7月18日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下の通りといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第3期
	2016年7月20日～ 2017年7月18日
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－%
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	3,732

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針**（当ファンド）**

引き続き、「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA）

当ファンドでは、経常黒字で証券投資資金の流入が期待できる市場や企業の直接投資などにより自国通貨に対して堅調な需要が見込めると考えられる市場、自国通貨が上昇する見込みがある市場、あるいは自国通貨が安定しており高いインカムゲインが期待できるような市場などを引き続き投資対象市場として検討します。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

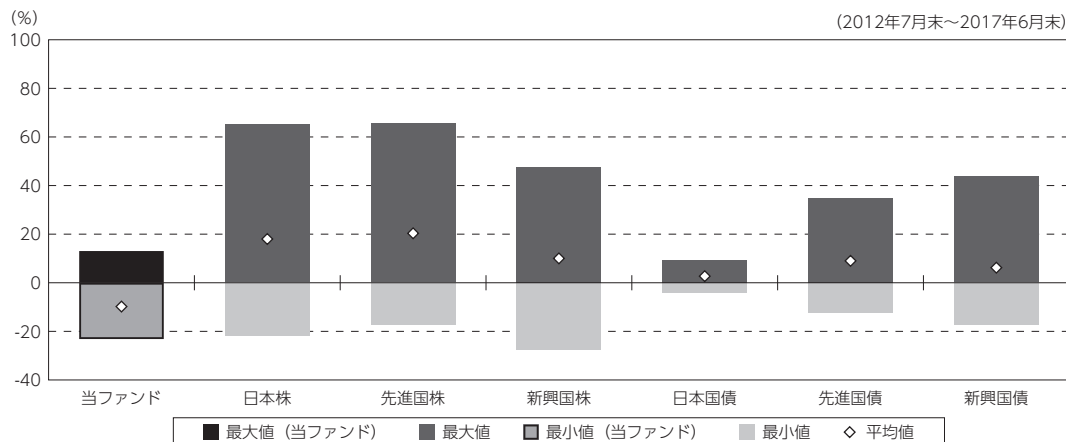
2016年7月20日から2017年7月18日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2014年6月2日から2029年7月17日までです。
運用方針	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券（国債、州政府債、政府保証債、国際機関債などをいいます。）を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA」 受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」 受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、国際経済・国際政治の動向に大きな影響を与えるとみられる国や地域の通貨建てのソブリン債券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。投資対象通貨の中から3通貨程度を選定し、当該通貨建てのソブリン債に投資します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	13.1	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 23.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 9.8	18.0	20.3	10.0	2.7	9.0	6.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年7月から2017年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2015年6月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いられる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年7月18日現在)

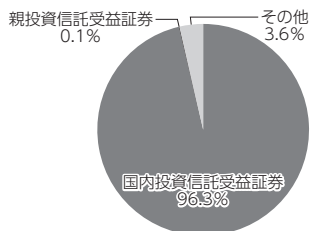
○組入上位ファンド

銘柄名	第3期末
	%
ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA	96.3
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

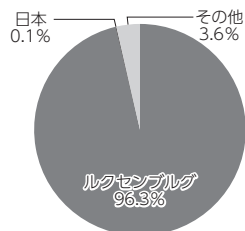
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

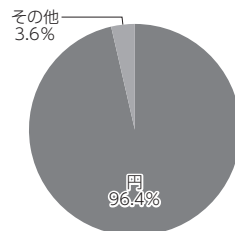
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第3期末	
	2017年7月18日	
純資産総額	741,646,083円	
受益権総口数	808,050,983口	
1万口当たり基準価額	9,178円	

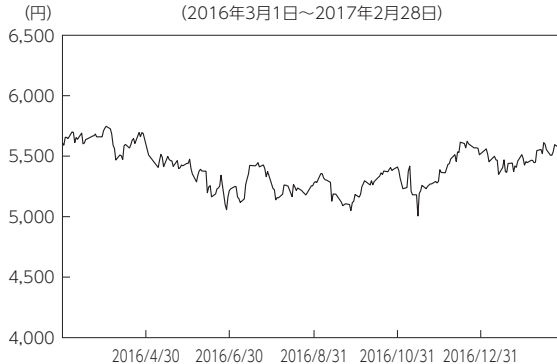
(注) 期中における追加設定元本額は456,988,498円、同解約元本額は665,716,016円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・コア・ソブリン・ボンド・ファンド クラスA

【基準価額の推移】

(2016年3月1日～2017年2月28日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2016年3月1日～2017年2月28日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2017年2月28日現在)

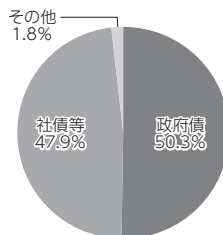
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	Inter-American Development Bank 7.20% due 01/22/18	社債等	インドネシアルピア	国際機関	8.3
2	Mexican Bonos 7.50% due 06/03/27	政府債	メキシコペソ	メキシコ	8.1
3	Mexican Bonos 7.75% due 05/29/31	政府債	メキシコペソ	メキシコ	6.5
4	Inter-American Development Bank 9.50% due 04/15/19	社債等	インドネシアルピア	国際機関	5.2
5	Mexican Bonos 10.00% due 11/20/36	政府債	メキシコペソ	メキシコ	4.9
6	Inter-American Development Bank 7.06% due 07/25/19	社債等	インドネシアルピア	国際機関	4.8
7	Mexican Bonos 8.00% due 12/07/23	政府債	メキシコペソ	メキシコ	4.6
8	Russian Federal Bond - OFZ 8.15% due 02/03/27	政府債	ロシアルーブル	ロシア	4.0
9	Mexican Bonos 6.50% due 06/09/22	政府債	メキシコペソ	メキシコ	3.5
10	Inter-American Development Bank 7.20% due 11/14/17	社債等	インドネシアルピア	国際機関	3.2
	組入銘柄数		41銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

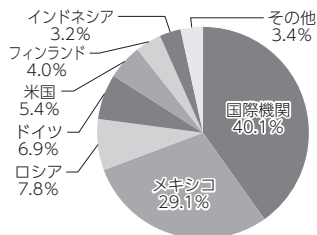
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

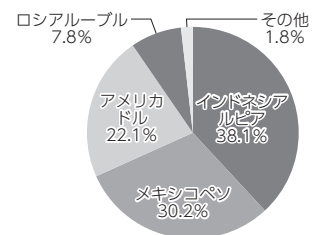
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



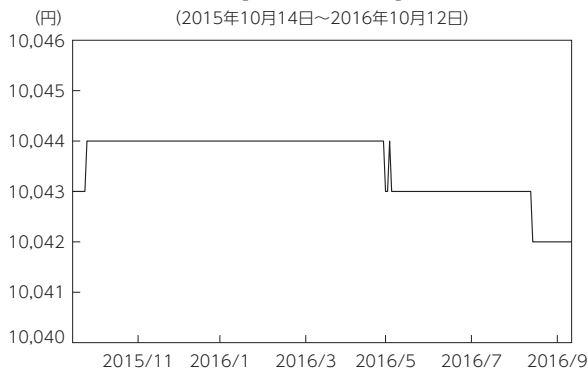
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2015年10月14日～2016年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2015年10月14日～2016年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,043円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2016年10月12日現在)

2016年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。